

(12) 沖縄



沖縄地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 観光は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)。

前回からの主要変更点

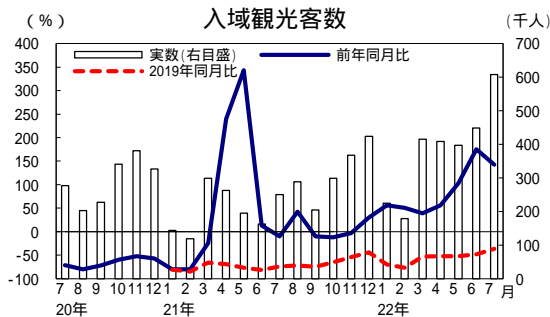
	前回(令和4年6月)	今回(令和4年9月)	
景況判断	持ち直しの動きがみられる	緩やかに持ち直している	
観光	持ち直しの動きがみられる	緩やかに持ち直している	
個人消費	このところ持ち直しの動きがみられる	緩やかに持ち直している	
雇用情勢	持ち直しの動きがみられる	持ち直している	

1. 観光の動向

観光は緩やかに持ち直している。

4 - 6月期の入域観光客数は、前年同期比102.1%増(2019年同月比50.9%減)となった。国内客は102.1%増となり、外国客は入国制限措置の継続等により引き続きゼロであった。月別で見ると、4月は前年同月比55.8%増(2019年同月比52.0%減)、5月は同103.3%増(同52.5%減)、6月は同175.3%増(同48.3%減)となった。7月は同142.7%増(同36.9%減)となった。

4 - 6月期のホテル稼働率は、前年同期差24.4%pt増となった。



入域観光客数等の動向

	2021年 10-12月	2022年 1-3月	2022年 4-6月	2022年 7月
入域観光客数(千人)	1,091	820	1,254	608
(前年比、%)	4.0	45.8	102.1	142.7
ホテル稼働率(%)	41.1	30.2	46.5	65.1
(前年差、%pt)	5.1	8.0	24.4	38.7

- (備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光政策課調べ。
2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。
3. ホテル稼働率の前年差については、内閣府にて算出。

2. 個人消費の動向

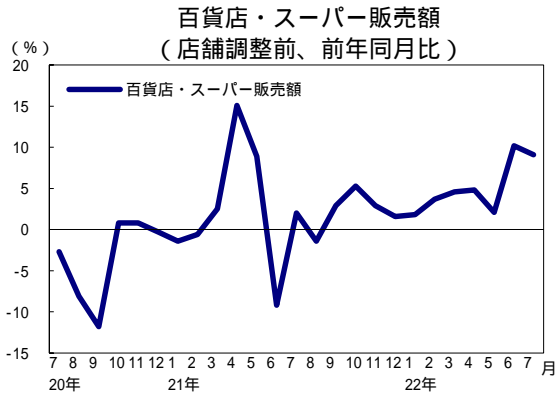
個人消費は緩やかに持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4 - 6月期は前期比 4.0%増となった。月別にみると、4月は前月比 1.5%増、5月は同 2.2%増、6月は同 1.8%減となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、4 - 6月期は前年同期比 5.6%増となった。月別にみると、4月は前年同月比 4.8%増、5月は同 2.1%増、6月は同 10.2%増となった。



	2022年4-6月	2022年4月	5月	6月	7月
RDEI (消費*1)	4.0	1.5	2.2	1.8	-
百貨店・スーパー(*2)	5.6	4.8	2.1	10.2	9.1
コンビニ(*2)	3.6	13.3	5.8	11.0	12.7
乗用車(*3)	1.1	16.9	32.0	15.3	8.8
(季節調整値)(*3)	0.4	10.9	36.0	49.9	3.5

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

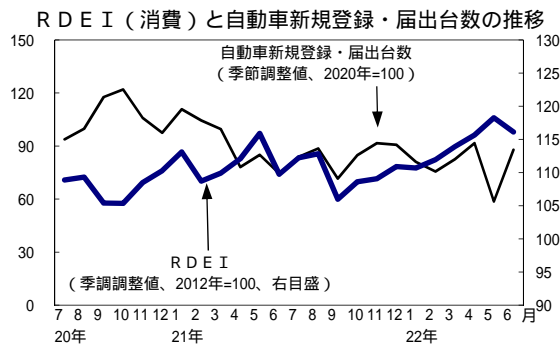
2. 前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは経済産業省調べ(店舗調整前)

百貨店・スーパーの2022年7月は速報値。

コンビニは日本銀行那覇支店調べ。

3. 乗用車は、乗用車新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

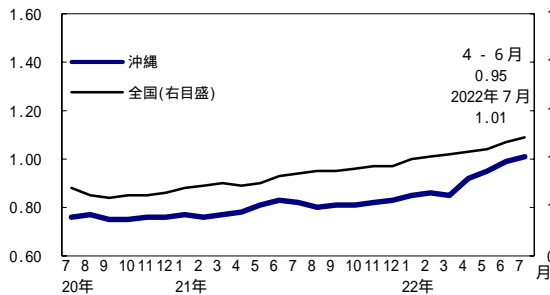


3. 雇用情勢

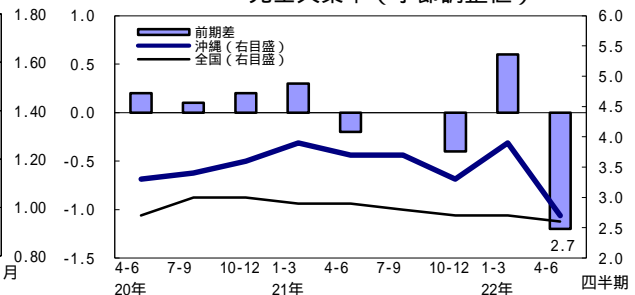
雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。

(倍) 有効求人倍率 (季節調整値、就業地別)



(ポイント) 完全失業率 (季節調整値) (%)



(備考) 沖縄県「労働力調査」の月次値を、内閣府にて四半期平均化。

(13) 景気ウォッチャー調査（令和4年8月調査）景気判断理由の概要

12. 沖縄

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

	分野	判断	判断の理由
	現状	家計動向 関連	□
○			・業者の情報によると、離島や本島北部の観光地のホテル、飲食店は行列ができるほど観光客が来ているが、官庁、ビジネス街の飲食店は全く客が入っていない。観光客は増えつつあるが、地元客、特にサラリーマンの客が外に出ていない（その他飲食 [居酒屋]）。
◎			・注文数が増えている（その他専門店 [陶器]）。
企業動向 関連		□	・外食系のチェーンによって、店舗が増加するのがある一方、閉店で減少するのあつて店舗の形態によって明暗が分かれており、一概に良しあしが測れない状況になっている（輸送業）。
		▲	・公共工事、民間工事共に見積依頼が若干減少しており、受注も減少し工場稼働率が低下している状態である（窯業土石業）。
		○	—
雇用 関連		○	・レンタカーやホテルの観光関係の求人数は、新型コロナウイルス感染症の第7波の間も増えており、取下げなどの動きはなかった（職業安定所）。
		□	・派遣先含めて、最近の物価高や燃料の価格高騰の影響で、良い話を聞かなくなっている。しかも、新型コロナウイルスの感染拡大で派遣スタッフを含め仕事を休まざるを得ない従業員が増加し、売上や経営に影響を及ぼしている（人材派遣会社）。
		▲	・求人企業との情報交換のなかで新型コロナウイルス感染拡大や燃料費の高騰、円安などの状況が重なり、業績の悪化や方針転換などの様々な話をうかがうことがある（学校 [大学]）。
その他の特徴 コメント			□：旅行客数、出張客数も徐々に増えてきているが、出発間際のキャンセルもかなりあるため、売上のにはほぼ横ばいである（旅行代理店）。 □：コロナ禍前と比べ金融機関の融資審査が厳しくなっており、分譲マンション購入希望者が融資承認がもらえず断念するケースが多い（住宅販売会社）。
先行き	家計動向 関連	□	・先々の宿泊客の予約数は増えている。ただし、ここ数日新型コロナウイルス感染症の影響で修学旅行のキャンセルが出ており、予断を許さない。現時点での売上予測は2019年比の40から45%程度と厳しい状態が続いている。飲食に関しては夕食宴会の予約は出てきているが、このまま予約が一気に増えるとは考えにくい（観光型ホテル）。
		○	・県内のレンタカー保有台数が、需要に対して不足気味であることを背景に、個人や法人利用の先行受注が好調に推移している（その他サービス [レンタカー]）。
	企業動向 関連	□	・新規の相談の来客数が止まったままである（建設業）。
		○	・急激に増加した新型コロナウイルスの新規感染者数に対する警戒感から、ウィズコロナ社会に適応する販促活動として静観から攻めに移行する動きが出始めている。2019年には届かないとみているが、リアルなイベントも動き出してきている（広告代理店）。
	雇用 関連	□	・10月からの早期出社に向けた求人数がそろそろ出始めてくるが、定期採用求人数は徐々に減少しているため、求人数からみると変わらないということとなる（学校 [専門学校]）。
	その他の特徴 コメント		

(D I) 現状・先行き判断D I（沖縄）の推移（季節調整値）

